

— NEWS RELEASE —

2024年3月9日（土）、10日（日）「東京防災DAYS 2024」に
タイガー魔法瓶が“防災炊飯体験ブース”を出展

東日本大震災の記憶を風化させず、今後に備えるために。

災害時でも“炊きたて”の温かくておいしいごはんが炊ける
「魔法のかまどごはん」を使った防災炊飯体験でもしもの時の備えを。

熱制御テクノロジーで世界をリードするタイガー魔法瓶株式会社（社長：菊池嘉聡、本社：大阪府門真市）は、2024年3月9日（土）、10日（日）に行われる「東京防災DAYS 2024」に、災害時でも炊きたてのおいしいごはんが食べられるように開発した「魔法のかまどごはん」を使った炊飯体験、ごはんの試食ができる「防災炊飯体験ブース」を出展いたします。東日本大震災発生から13年となる2024年3月11日を前に、震災を風化させず、これからの災害への備えを見直すというイベント主旨に賛同し、この度ブース出展することにいたしました。当社は、2024年1月17日（水）にも「ひょうご安全の日のつどい」に出展しており、これからも「食」の観点から防災への取り組みを実施してまいります。



「東京防災DAYS 2024」は、東日本大震災の教訓を風化させず、地震に備えるための防災イベントです。実施される東京臨海広域防災公園は、首都直下地震の発生時に「緊急災害現地対策本部」が置かれる首都圏広域防災の拠点です。平時より、「そなエリア東京」での防災体験学習を始め、防災に関する訓練や情報交換など、発災時に備えた活動を行う場であり、災害に対応できる知識や知恵、備えを習得する場として活用されています。

「東京防災DAYS 2024」で、当社は昨年10月に発売開始した「魔法のかまどごはん」の炊飯体験、試食を行います。本製品は燃料に新聞紙を使うことで、電気を使用せずに簡単に炊きたてのごはんが炊けるので、有事の際に大きな助けとなることが期待されています。被災後ライフライン復旧までの間に電気やガスを使わなくても、新聞紙に火をつけることの繰り返しで簡単に「炊きたて」のごはんが食べられる防災炊飯を、この機会にぜひご体験ください。



あたたかいこと、つめたいこと。
温度は、私たちのところに、
どれだけのやすらぎと、力をくれるだろう。

家庭の団らんから、宇宙の探査まで。
たった1°Cがくれる、大切なものに寄り添って。

タイガー魔法瓶は創立100年を迎えました。
そして、次の100年へ。



https://youtu.be/ojs_gKj118



開催概要

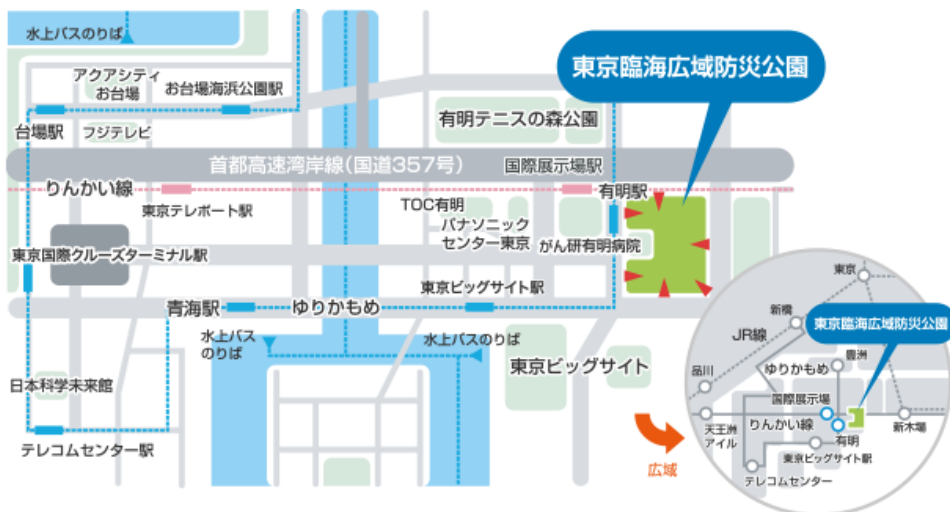
東京防災DAYS 2024

- ・開催日時：2024年3月9日（土）、10（日）10:00～16:00
 - ・開催場所：東京臨海広域防災公園（東京都江東区有明3丁目8番35号）
- 公式サイトイベント情報はこちらより URL <https://www.tokyorinkai-koen.jp/event-list/>

タイガー魔法瓶「魔法のかまどごはん」“防災炊飯体験ブース”（会場内エントランス広場にて実施）

- ・炊飯体験&試食（1日6回開催予定）
- 10時～/11時～/12時～/13時～/14時～/15時～
- ※各回、約40分間で炊飯と試食を行います。途中参加・途中退出可能ですのでお気軽にお越しください！

▼アクセス 東京臨海広域防災公園ホームページより



【電車】

東京臨海高速鉄道りんかい線「国際展示場」駅より徒歩4分
ゆりかもめ東京臨海新交通臨海線「有明」駅より徒歩2分

【バス】

都バス 門19甲系統「がん研有明病院前」停留所より徒歩約2分
都バス 東16系統「有明二丁目」停留所より徒歩約7分

▼園内マップ 東京臨海広域防災公園ホームページより



- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 本部棟（防災体験学習施設そなエリア東京） | 2 多目的広場（そなエリア東京BBQガーデン） |
| 3 ヘリポート | 4 エントランス広場 |
| 5 多目的広場 | 6 草地広場 |

防災炊飯体験で使用する「魔法のかまどごはん」について



魔法のかまどごはん (KMD-A100) ※公式オンラインストア限定商品

<https://www.tiger-corporation.com/ja/jpn/product/rice-cooker/kmd-a/>

自然災害の多い日本において、被災時という厳しい環境下で少しでも心と体の安らぎを保っていただき「いつでも温かいごはんが食べられるようになってほしい」という想いからこの製品を思い立ち、実際に被災者の方への聞き取り調査を行うなどして、被災時に本当に必要とされる製品を目指して開発しました。本物のかまどと同じように熱が伝わる構造にすることで、ごはんの甘みとハリを引き出すので、もしもの時にも炊きたてのおいしいごはんを味わっていただけます。ブースでは、実際に商品を使用して炊飯体験をしていただけます。

■「魔法のかまどごはん」の使い方

白米3合を炊飯する場合、吸水時間は夏場約30分、冬場約40分、炊飯時間約20分、蒸らし時間約15分で炊きたてごはんを味わっていただけます。炊込みごはんも炊飯可能です。

 <p>STEP 01 用意するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お米、水 ・新聞紙 ・着火ライター ・軍手 	 <p>STEP 02 お米を洗う</p> <p>お米を洗い、お米の合数ぶんの水をなべに入れます。そのまま夏場は約30分以上、冬場は約40分以上、水に浸します。</p>	 <p>STEP 03 新聞紙を準備</p> <p>この時間を利用して、新聞紙をねじれた棒状にします。</p>
 <p>STEP 04 炊き始め (はじめチョコチョコ)</p> <p>最初は1分半間隔で新聞紙を左右交互に投入して着火ライターで火をつけます。</p>	 <p>STEP 05 炊きあげ (なかパッパ)</p> <p>1分間隔で新聞紙を左右交互に投入して火力をアップ。新聞紙の最後の1枚を残して炊きあげます。</p>	 <p>STEP 06 むらし・炊きあがり</p> <p>炊きあげから10分後に最後の新聞紙を投入。余分な水分を飛ばします。さらに5分むらし、炊きあがりです。</p>

東京臨海広域防災公園について

首都直下地震の発生時に、現地における被災情報のとりまとめや災害応急対策の調整を行う「緊急災害現地対策本部」が置かれる首都圏広域防災のヘッドクォーター及び広域支援部隊等のベースキャンプ、災害医療の支援基地として、東扇島地区（川崎市）の物流コントロールセンターと一体的に機能する防災拠点施設です。

東京臨海広域防災公園公式サイト
<https://www.tokyorinkai-koen.jp/>



提供：東京臨海広域防災公園（そなエリア東京）

タイガー魔法瓶の震災への取り組み

◎ 令和6年能登半島地震により被害を受けた製品の「特別修理対応」受付中

- ・対象 : 令和6年能登半島地震により被害を受けた当社製品
 - ・対象地区 : 令和6年能登半島地震にかかる災害救助法の適用について【第2報】記載地区
https://www.bousai.go.jp/pdf/240101_kyuujo2.pdf
 - ・対象期間 : 災害救助法適用日(令和6年1月1日)から3カ月。
災害救助法適用の地区が追加された場合はその適用日に準じます。
 - ・問い合わせ窓口 : https://www.tiger-corporation.com/ja/jpn/newsroom/editorial/news_20240105/ 参照
- ※被害の状況によっては修理できない場合がございます。何卒、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

タイガー魔法瓶は愛着ある製品をできるだけ長くお使いいただくため、補修用部品を業界基準より長い10年間保有しています。

<補修用部品10年保有について>

家電製品の機能を維持するために必要な部品は、「補修用性能部品」と呼ばれ、家電メーカーは製品が故障した際に修理できる部品を一定期間、保有しています。

経済産業省の指導で、たとえば炊飯器なら保有期間は製造打ち切り後6年と定められておりますが、タイガー魔法瓶ではお客さまへのサービス向上のため、保有期間を全商品10年としております。

※材料調達や設備状況等によっては10年未満で供給できなくなる場合がございます。

タイガー製品を
末永くご愛用いただくために
補修用部品

10年間保有

◎ 青少年教育や地域の防災へ…

業務用モデル「魔法のかまどごはん KMD-B101」(数量限定)

2024年4月21日発売。業界基準より長い10年間保有している修理・交換用のアフターパーツ部品(補修用性能部品)で、設定保有期間が過ぎ、廃棄予定であった炊飯器の内なべを再利用したモデル。アウトドア施設や公共団体など、青少年教育や防災訓練・地域の防災備蓄など、より多くの機会でご活用いただくことを目指します。

※本製品はアウトドア施設や公共団体などを対象とした製品です。
一般向けの販売は承っておりません。

本製品に関するお問い合わせはこちらから
<https://www.tiger-forest.com/c/uPrH>



◎ 一般向けモデル「魔法のかまどごはん KMD-A型」お客様の声

利用者コメント(一部抜粋)

- ・防災用として購入しましたが、思っていたよりもずっとおいしく炊けて、感動しました！
子どもたちと新聞紙をさいて作るころから燃やすところまで、楽しくできて良かったです。
- ・災害時、電気やガスが止まっても、水と米と新聞紙でごはんが炊けるのは素晴らしい発想だと思います。これこそが探していたものです。ガスカートリッジも考えたのですが長期にわたっての保管には不向きなのでこのような製品を探していました。
- ・炊きあがり「(味はともかく)食べられれば良い」ではなく、「おいしい炊きあがり」になるのが申し分ないです。アウトドアよりも防災用品として備えておきたいと思っていたので、災害時においしく温かい食事が得られる意味は非常に大きいと感じています。